

血清群ACWY髄膜炎菌ワクチン MenACWYとMPSV4: 知っておきたいこと

Many Vaccine Information Statements are available in Spanish and other languages. See www.immunize.org/vis for more information. Many vaccine information statements are available in Spanish and other languages. See www.immunize.org/vis for more information. See www.immunize.org/vis for more information.

1 なぜワクチン接種が必要ですか？

髄膜炎疾患は髄膜炎菌と呼ばれる細菌が原因となる重大な病気です。髄膜炎（脳と脊髄を包む髄膜の感染）や血液の感染に進展する場合があります。髄膜炎疾患は健康体であっても、前触れなく発症することがあります。

髄膜炎疾患は、密接な接触（咳やキス）や長時間の接触、特に同居者の間で、人から人へと感染します。

少なくとも12種類の「血清群」髄膜炎菌が知られています。ほとんどの髄膜炎疾患は、血清群A・B・C・W・Yが原因です。

髄膜炎疾患は誰でも発症しますが、次のような場合、感染の危険性が高まります：

- 1歳未満の乳幼児
- 16-23歳の青年および成人
- 免疫力が衰える病気にかかっている場合
- 髄膜炎菌隔離者と日常的に接触する微生物学者
- 感染者が出た地域の住民

適切な治療が行われても、100人中10-15人の髄膜炎菌感染者が死亡します。死に至らなかった場合でも、100人中10-20人の感染者に、聴力障害・脳の損傷・腎臓の損傷・切断・神経系の問題・皮膚移植によるひどい傷跡などの重い後遺症が残ります。

血清群ACWY髄膜炎菌ワクチン接種により、血清群A・C・W・Yが原因となる髄膜炎菌性疾患が予防できます。血清群Bによる感染予防には別のワクチンの接種が可能です。

2 血清群ACWY髄膜炎菌ワクチン

血清群A・C・W・Yについて、2種類の髄膜炎菌ワクチンが食品医薬品局（FDA）に認可されています：結合型髄膜炎菌ワクチン（MenACWY）と髄膜炎菌多糖体ワクチン（MPSV4）です。

MenACWYワクチン接種は11-18歳の青年に推奨されています：11歳か12歳で初回接種、16歳で促進接種を行います。HIV感染者など、特定の青年は補足接種が必要となります。詳しくは医師にご相談ください。

青年に行われる標準的なワクチン接種の他、次にあてはまる場合にはMenACWYワクチン接種が推奨されています：

- 血清群A・C・W・Y髄膜炎菌疾患の集団発生によりリスクが高いとされた人々
- 脾臓に損傷がある、また脾臓が摘出されている場合
- 「持続性補体成分欠損症」と言われる稀な免疫系の病気にかかっている場合
- エクリズマブ（商品名ソリリス[®]）の投与を受けている場合
- 髄膜炎菌隔離者と日常的に接触する微生物学者
- アフリカの一部など、髄膜炎菌疾患の流行地域を旅行する、またはそれらの地域に住んでいる場合
- 学生寮に住んでいる大学新入生
- アメリカ軍新兵

生後2-23カ月の乳幼児、また特定の病気にかかっている場合は、十分な免疫を得るために複数回の接種が必要になります。接種回数・時期・促進接種の必要性については医師にお尋ねください。

上記に当てはまる場合で、生後2カ月-55歳であるか、以前にMenACWYワクチン接種を受けたことがある場合、複数回の接種が予定される場合には、MenACWY ワクチン接種が推奨されています。55歳以上で1回のみ接種（旅行者または集団発生対応時）が予定される場合、MPSV4 ワクチン接種が推奨されています。



3

ワクチン接種を避けなければならない場合

以下のような場合、予防接種担当者にお知らせください：

- 何かに生死に関わる強いアレルギーがある場合。

今まで血清群ACWY髄膜炎菌ワクチン接種後に生死に関わるアレルギー反応が見られた場合、または、ワクチンの成分に強いアレルギーがある場合には、ワクチンの接種はできません。ワクチンの成分について医師の説明があります。

- 妊婦や授乳中の場合。

妊婦や授乳中の母親へのワクチン接種のリスクについては、十分な情報がありません。妊娠中のワクチン接種は、必要性がはっきりしている場合のみに限定されねばなりません。

風邪などの軽い病気にかかっている場合、本日のワクチン接種はおそらく可能です。中程度から重い病気にかかっている場合は、おそらく回復するまで待たねばなりません。医師の診断を受けてください。

4

ワクチンの副反応のリスク

薬の副作用と同様に、予防接種にも副反応が見られる場合があります。通常症状は軽く数日で自然に治まりますが、重度の症状が見られる場合もあります。

血清群ACWY髄膜炎菌ワクチン接種後、半数を超える人が接種部分の赤み・痛みなど軽い症状を経験します。これらの症状は通常1-2日間続きます。MPSV4ワクチン接種後に比べ、MenACWYワクチン接種後によく見られます。

ワクチン接種後、低い確率で微熱が出る場合があります。

ワクチン予防接種後に想定される問題：

- 予防接種などの医療処置を受けた場合、気を失う場合があります。15分程度座る、または横になることで失神を避け、転倒してけがをすることが防げます。目がくらんだり、視野に変化があったり、耳鳴りがする場合は医師に知らせてください。
- 接種後に肩に激痛があったり、接種した方の腕が動かしくくなる場合があります。これらが見られる場合は非常に稀です。
- どのような薬も強いアレルギー反応を引き起こす可能性があります。ワクチン接種によるこのような反応は非常に稀で、100万回に1回程度で、接種後数分-数時間で発生するものとされています。

他の薬と同様、ワクチン接種が深刻なけがや死亡の原因となる可能性は非常に低くなっています。

ワクチンの安全性確認は常に行われています。詳しくは、以下をご覧ください：

www.cdc.gov/vaccinesafety/

5

重大な反応があった場合には？

どのようなことに注意せねばなりませんか？

- 強いアレルギー反応・高熱・行動の変化などがなければ注意して観察してください。

強いアレルギー反応として、蕁麻疹・顔と喉の腫れ・呼吸困難・心拍増加・めまい・虚弱などがあげられ、通常接種後数分-数時間後に現れます。

何をすべきですか？

- 強いアレルギー反応その他の緊急事態と考えられる場合には、救急車(9-1-1)を呼んで最寄りの病院で受診してください。それ以外の場合は、主治医に連絡をしてください。
- ワクチン有害事象例報告データベース (VAERS) に事後の報告が必要です。担当医師に報告義務がありますが、VAERSのウェブサイト www.vaers.hhs.gov で、または電話 1-800-822-7967 での自己報告も可能です。

VAERSでは医療に関する診断は行いません。

6

全米ワクチン被害補償プログラム

全米ワクチン被害補償プログラム (VICP) は、特定のワクチンで被害を受けた人々を救済するために設けられた連邦政府のプログラムです。

ワクチン接種による被害の疑いがある場合、電話1-800-338-2382またはVICPのウェブサイト www.hrsa.gov/vaccinecompensation でプログラム内容を確認し、補償請求を提出することができます。補償請求には提出期限があります。

7

より詳しい情報は？

- 医師にご相談ください。ワクチン添付文書やその他の情報源について助言を受けることができます。
- お住まいの地域か州の保健局に連絡ください。
- 疾病対策センター (CDC) にご連絡ください：
 - 1-800-232-4636 (1-800-CDC-INFO) まで電話か、
 - CDCのウェブサイト www.cdc.gov/vaccines をご覧ください

Vaccine Information Statement - Japanese
Meningococcal ACWY Vaccines

03/31/2016

42 U.S.C. § 300aa-26

Translation provided by the Oregon Health Authority

Office Use Only

